

「生涯活躍のまち・つる(都留市版CCRC)構想」

実現に向けた取組について



7月号の広報でもお知らせしましたように、本市では、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」における「東京一極集中の是正・地方移住の推進」の切り札として示した「日本版CCRC構想」について、今まで取り組んできました「シルバー産業の構築」を進展させ、さらに本市の強みである大学などの連携による「都留市版CCRC構想」の実現を本市のまちづくりの核として目指すこととし、取組を進めています。

8月3日に開催された「第7回日本版CCRC構想有識者会議」において、国内での先進的な取組事例の代表として、石破茂地方創生担当大臣、小泉進次郎大臣政務官をはじめとする国の関係省庁の職員及び同会議の委員の前で、堀内市長が、「都留市版CCRC構想」について発表し、出席者の方々より、今までの取組への評価とさらなる構想推進への激励をいただきました。

さらに、この構想実現に向けて大きな役割を持つ、都留文科大学、健康科学大学及び県立産業技術短期大学校の連携による(仮称)大学コンソーシアムつるの設立に向け、3校と市による協議を重ねています。

また、「地域おこし協力隊事業」を活用し、CCRC事業に全国でも先駆的に取り組んでいる事業者の支援を受ける中で、CCRC構想の実現に向け、8月より1名の隊員が移住や事業主体の運営につながる活動を始めています。

今後、この流れに乗り遅れることなく、移住してくる方々だけでなく、このまちに住むすべての人にとって、「豊かな暮らし」につながる持続可能なまちづくりへの取組として、「都留市版CCRC構想」の実現に向けて、全力で進めてまいりたいと考えておりますので、引き続きご理解とご協力をお願いします。



【地域おこし協力隊

(CCRC推進事業)の紹介】

やまなかとしえ
山中敏枝さん 下谷地域在住



8月3日から、都留市地域おこし協力隊の一員になりました山中敏枝と申します。

仕事を離れ再び「学び」を体験し、地域のお役に立てる存在になりたいと「医療・介護専門学校」に2年通いました。そこで知り合った女性に紹介された本に「これからの社会福祉の在り方」や「これからの高齢者住宅」などのことが書かれており「地域プロデューサー」の存在の大切さを知りました。

現在の地方都市は、少子高齢化、若者の都市部流出、産業の疲弊など多くの問題を抱えており、国が推し進める「地方創生・移住・CCRC等」を使って課題を解決していくことが重要です。これらのことを長期戦略に盛り込み「都留市版CCRC構想」を実践している「都留市」に興味を持ち、移住して

※「CCRC」って何??

アメリカを発祥とし、「高齢者が移り住み、健康時から介護・医療が必要となる時期まで継続的なケアや生活支援サービス等を受けながら生涯学習や社会活動等に参加する共同体(Continuing Care Retirement Community)」のことで、アメリカでは約2,000のCCRCに約60万人が生活しており、中でも「知的刺激や多世代交流」を求める高齢者のニーズに対応する「大学連携型CCRC」が近年増加しています。

「日本版CCRC」の構想については、国の有識者会議が中間でまとめた「日本版CCRC構想素案」において、「東京圏をはじめとする高齢者が、自らの希望に応じて地方やまちなかに移り住み、多世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要な医療・介護を受けることができるような地域づくり」を目指すものとしています。

※また、国では、「日本版CCRC構想」の正式名称を「生涯活躍のまち」とし、愛称を「プラチナ・コミュニティ」とすることとしています。

まいりました。
60代、70代はまだまだ元気なアクティブシニアです。生きがいを持ち、年をとっても生き生きと自分らしく生きられるコミュニティの形成に少しでもお役に立ちたいと考えております。
どうぞよろしく願いいたします。